

排泄ケアの方法

- 自尊心やプライバシーに配慮しながら介助するようにしましょう

患者さんが恥ずかしさや申し訳なさから、辛い思いをしていることがあります。できるだけ本人に任せ、出来ない部分だけを手伝うようにしましょう

- 足腰の力が弱くなってきたが短い距離なら歩けるような場合、トイレまで安全に移動できるように障害物をなくしたり、通路を明るくしておくなどしましょう

ケアマネジャーさんに相談し、転倒防止用の手すりなどの検討をしてもらうのもよいでしょう

- 尿意や便意が分かりにくかったり、トイレまで間に合わないことがあるようなら失禁パンツを併用しながらトイレを使用しましょう

- 暗くて移動が危ない夜間はポータブルトイレを使用するのもお勧めです



- 寝ていることが多く、意思疎通ができ、尿意や便意がある場合は、差し込み式の尿器や便器を使用するとよいでしょう

- 意思疎通ができなかったり、尿意や便意がない場合はテープタイプのオムツを使用するとよいでしょう



- 排泄の度、オムツ全体を替えるのは体力的にも経済的にも負担となるので、尿とりパッドの併用をお勧めします。尿が少ないときはパッドの交換だけで済ませることができます

